遠くにある夢、近くのアイデア　２０１０

1.　日本の教育の盲点

最近の日本の教育事情を考えたときに、基礎的な知識を与えるのみに終始しているような気がする。本当に教えないといけないことは、実生活に結びついた生活体験ではないかと思っている。というのが、ある建築雑誌「チルチンびと」を、たまたま手にして次のような記事を目にしたとき、心から共感してしまったのです。記事の抜粋はこうであった。

…

昔は「知は力なり」と言って、知識をたくさん持った人が、「末は博士か大臣か」と言って偉くなるものだった。ところが、知識が実社会の知恵になっていくにはある触媒が必要だということが、いま言われている定説なんですね。その触媒というものは体験なんです。生活上いろいろな体験をした子、遊びや家事労働を含めて、生活体験をたくさんした子というのは、知識を知恵に変える能力を持った子どもに育つ。生活体験がすぽっと落ちてしまうと、頭でっかちで知識だけの子どもになってしまう傾向がありますね。云々。

…

それでは教育の足らない部分は、どうすれば補えるのか。

2.　中山間地域の高齢化と疲弊

地方の社会、経済、産業、生活が見捨てられて長い年月が経過した。都会と比較して総てが足りない。優秀な若い人材はふるさとを離れ、高齢者ばかりが残っている、それも後期高齢者である。若者は都会に出ても定職は無いのが実状なのに。

便利の悪い過疎地の森林や土壌によって浄化された水が都会人の喉を潤し、その貯留が下流の洪水を防いでいるのは厳然たる事実である。

しかし、兼業農家を志しても若者が定住するための兼業職種があまりにも少ない。

どうすれば地方が元気に若くなれるのか。

3. 日本の食糧事情

ものすごく堅い話であるが、世界中で、ほとんどの国民が明日の飯を心配してないで暮らせるという国は、極めて珍しく数えるほどである。世界全人口のうち約6分の1は、何日も食べ物を満足に口にしていない困窮生活おくっていると聞いたことがある。

世界中が餓えているのである。

それにしては、日本は食糧自給率が4割を切っているのに、なんと贅沢に食べ物を喰い、無駄に消費しているのだろう。

農水省のデーターによると、日本のフードマイレージは飛びぬけて世界最大となっている。

遠い国からの食糧の輸入という巨大なエネルギーとお金を使って食料を確保しているということです。

一方、国内の農業事情といえば、田畑の3分の1近くは休耕田、放棄地になっており、田舎で農業を細々と営む人といえば、後期高齢者が実に多いのである。この先、ますます日本の農業は衰退していくのではないかと危惧されている。

日本の農業はこのままでいいのでしょうか。

4. 世界の農業政策

世界に目を移すと特殊な事が起こっている、中国をはじめ韓国、中東諸国などが自国の農地だけでなく、世界の発展途上国の農地転用可能な土地の囲い込みを積極的に行っている事実がある。この先、世界人口はまだまだ増え続ける。その結果、世界食糧危機という大恐慌に見舞われる時が確実に近づいているという周知の基での政策である。

いつの日か日本は非常に値段の高い食料を買わざるを得ないときがやってくる。
せめて国内の空いた農地を活用できないのだろうか。

5. 日本はどうすればいいの

それでは日本はどうすればいいのか。地方の農業を支えているのはお年寄りが多い。若い世代の多くが農作業を全く知らないという事実が根本的な課題でもある。

若者と農業をどう繋ぎ合せるかがポイントである。

ついでに私が言いたいのは、子供手当てに1兆2230億円もバラ撒くのなら、その予算の一部を政策として、子供たちの将来のために有効に使う手立てをこうじてもらいたいと考えているのです。たんだのバラ撒きは政策とは言えない。

再び日本の農林業はどうすればいいの。

6. 夢・アイデァという私の夢

以上のことをひとつの前提として、そろそろ夢・アイデァ募集のテーマに入ろうと思う。

日本の教育の足らない部分、「チルチンびと」の考え、田舎の疲弊、世界と小さな日本の将来的な食糧事情、さらに、夢・アイデァのテーマを具象化した、まちづくり、地域振興、観光、景観、環境、子育てなどを全部一緒に、かき混ぜて、かき混ぜて、かき混ぜて突如ガラガラポンと出てきたのが、次の夢・アイデァです。

7. 結論としたい私の夢・アイデァ

私たちが、ずぅーっと若かったころ夏休みになると学校から臨海学校、林間学校などに連れて行ってもらえたものでした。いつの間にか、そんなうるわしい行事は消え果ててしまい、子供たちは集団で共同生活をする機会がめっきり減ってしまった。団体生活での実体験が将来の社会生活に生きてくるのは自明のことであると大人はみんな知っている。臨海学校、

林間学校が廃止された理由は、教師、教諭の個人的な責任を回避するために、ややこしい団体生活は止めていったものともとれる。

8. 結論は簡単に

法律でもって、子供たちに過疎地での臨海学校、林間学校の実習を、毎年義務付ける。

小、中学校の授業の一環として臨海学校、林間学校での農業実習や漁業、林業実習を義務付けてほしい。もちろん補助金は有効に設定していただく。

過疎地の小、中学校は廃校になったものが多い、その施設を利用するとともに、それぞれの地域が個性を出した宿泊施設を備えることによって、過疎地帯での雇用と定住を生み出す。地産・地消が促進される。

課外教育の内容はどんなものが良いのか。

①子供たちが、幼いときから農・林・漁業などの第一次産業に接して、そのシステムを実践的に身につける。

②農林業の重要性、加えて自然のエコを徹底して学ぶ。

③現状ではあまり教えられていない現在と将来における世界と日本のかかわりを正しく教える。

それではどういう結果が創出されるのでしょうか。

① 地方の大学の教育課程を修了した若者の雇用が地方に生み出される。

② 荒れ地と化した農地や森林が再生されることがうれしい。

③ 子供たちが、大人になった子供たちが、山や海や川を汚さなくなる。

④ 児童・生徒の教育が、実習教育により、身についたものと成る、自分で生産したものを口にできる。

⑤ 携帯電話やゲームやアイポット、ウィニーの無い落ち着いた生活の意義を知る。

⑥ 子供たちが精神的に落ち着く。

⑦ 創造力が養われる。

⑧ 日本の食糧自給率が上がっていく可能性が高くなる。

効果には計り知れないものがある。

ただ、こんなことを夢・アイデアとして提案するなど少し寂しい気がするが、実現していただきたい。